

指定文化財一覧

【ふりがなについて】

- (1) 一覧内のふりがなは一般的な呼称です。
- (2) 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」一覧表にある5つのグスクは、登録時のふりがなを用いて、城跡を「じょうあと」と表記しています。
- (3) 国指定、県指定の各史跡一覧にある城跡は「じょうせき」で統一しています⁽¹⁾。ただし、「山田城跡」は「やまだぐすくあと」と表記しています⁽²⁾。

(1) 沖縄県教育庁文化課編『沖縄県文化財調査報告書第53集 ぐすく・グスク分布調査報告(1) - 沖縄本島及び周辺離島 -』(1983年, 沖縄県教育委員会)の例言より。

(2) 恩納村教育委員会編『国指定史跡 山田城跡保存管理計画策定報告書』(2012年, 恩納村教育委員会)の例言より。

指定文化財一覧表

1. 世界遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」一覧 (2000 (平成12) 年12月2日 世界遺産に登録)

No.	名 称	指定区分	所 在 地
1	玉陵	国指定史跡 重要文化財 (建造物)	那覇市首里金城町1丁目
2	園比屋武御嶽石門	重要文化財 (建造物)	那覇市首里真和志町1丁目
3	今帰仁城跡	国指定史跡	今帰仁村字今泊ハンタ原
4	座喜味城跡	国指定史跡	読谷村字座喜味城原
5	勝連城跡	国指定史跡	うるま市勝連南風原赤吹原、同城之下他
6	中城城跡	国指定史跡	中城村、北中城村
7	首里城跡	国指定史跡	那覇市首里当蔵町3丁目
8	識名園	特別名勝	那覇市字真地御殿原
9	斎場御嶽	国指定史跡	南城市知念字久手堅サヤ八原

- (1) 文化財の中でも、国指定の文化財(国宝、重要文化財、特別史跡・名勝、国指定史跡・名勝)が世界遺産に登録される対象となります。
 (2) 園比屋武御嶽石門は、史跡首里城跡の指定範囲内に含まれています。

2. 国指定史跡一覧

No.	名 称	指定年月日	所 在 地
		(指 定 経 緯)	
1	宇佐浜遺跡	昭47.5.15	国頭村字辺戸字佐浜 (昭31.10.19 琉球政府指定埋蔵文化財)
2	今帰仁城跡 附シイナ城跡	昭47.5.15	今帰仁村字今泊ハンタ原 (昭30.1.25 琉球政府指定史跡・名勝 昭33.4.17 琉球政府指定特別史跡 昭37.6.7 琉球政府指定有形文化財(建造物) 昭54.12.28 追加指定 平21.7.23 追加指定 平22.2.22 追加指定及び名称変更 平24.9.19 追加指定 平27.10.7 追加指定)
3	伊波貝城	昭47.5.15	うるま市石川伊波座式次原 (昭31.10.19 琉球政府指定埋蔵文化財)
4	座喜味城跡	昭47.5.15	読谷村字座喜味城原 (昭31.2.22 琉球政府指定特別重要文化財・琉球政府指定史跡) (昭53.3.7 追加指定・一部解除)
5	安慶名城跡	昭47.5.15	うるま市字安慶名亀甲原 (昭36.6.15 琉球政府指定史跡)
6	勝連城跡	昭47.5.15	うるま市勝連南風原赤吹原、同城之下他 (昭42.4.11 琉球政府指定史跡)
7	萩堂貝城	昭47.5.15	北中城村字萩堂後原 (昭31.10.19 琉球政府指定埋蔵文化財)
8	中城城跡	昭47.5.15	中城村、北中城村 (昭30.1.25 琉球政府指定史跡・名勝・重要文化財) (昭33.4.17 琉球政府指定特別史跡) (昭37.6.7 琉球政府指定特別重要文化財)
9	大山貝城	昭47.5.15	宜野湾市字大山喜盛原 (昭31.10.19 琉球政府指定埋蔵文化財)
10	首里城跡	昭47.5.15	那覇市首里当蔵町3丁目 (大14.4.24 国宝指定(首里城正殿) 昭8.1.23 国宝指定(飲金門、瑞泉門、白銀門、守礼門) 昭30.11.29 琉球政府指定史跡 昭56.8.28 一部解除 平11.1.28 追加指定(園比屋武御嶽石門))
11	円覚寺跡	昭47.5.15	那覇市首里当蔵町1丁目、2丁目 (昭8.1.23 国宝指定(総門、右脇門、左脇門、放生橋、 山(三)門、仏殿、龍淵殿、鐘樓、獅子窟) 昭30.11.29 琉球政府指定史跡 昭37.10.25 琉球政府特別史跡)
12	玉陵	昭47.5.15	那覇市首里金城町1丁目 (昭31.2.22 琉球政府指定特別重要文化財・特別史跡)
13	末吉宮跡	昭47.5.15	那覇市首里末吉町1丁目 (昭8.1.23 国宝指定(末吉宮本殿) 昭31.2.22 琉球政府指定史跡・特別重要文化財) (昭43.10.15 琉球政府特別史跡)

No.	名 称	指定年月日	所 在 地	
			《指 定 経 緯》	
14	斎場御嶽	昭47.5.15	南城市知念字久手堅サヤ八原	
			(昭30.1.25 琉球政府指定史跡・名勝)	
15	知念城跡	昭47.5.15	南城市知念字知念上知念田原、同クルク原	
			(昭34.12.16 琉球政府指定史跡 昭37.6.7 琉球政府指定重要文化財)	
16	米敷城跡	昭47.5.15	南城市玉城字米敷竹之口原、同屋敷原	
			(昭34.12.16 琉球政府指定史跡 平8.1.22 追加指定(蔵屋敷地区))	
17	具志川城跡	昭47.5.15	糸満市字高屋武具志川原、同カネク原	
			(昭34.12.16 琉球政府指定史跡 平20.7.28 追加指定・一部解除)	
18	川平貝塚	昭47.5.15	石垣市字川平仲間原	
			(昭31.10.19 琉球政府指定埋蔵文化財)	
19	仲泊遺跡	昭50.4.7	恩納村字仲泊比屋根原	
20	具志川城跡	昭50.12.10	久米島町字仲村隈クメシ原	
			(昭36.6.15 琉球政府指定史跡 平20.7.28 追加指定)	
21	フルスト原遺跡	昭53.3.3	石垣市字大浜フルスト、同カンド原	
22	木綿原遺跡	昭53.11.15	読谷村字渡具知木綿原	
23	具志原貝塚	昭61.6.9	伊江村字川平下原	
			(昭49.11.11 県指定史跡 平10.1.16 追加指定)	
24	仲原遺跡	昭61.8.16	うるま市与那城伊計	
25	玉城城跡	昭62.8.21	南城市玉城字玉城門原、同伊佐見原	
			(昭36.6.15 琉球政府指定史跡)	
26	浦添城跡	平1.8.11	浦添市字仲間山川原	
27	大和井	平4.12.18	宮古島市平良字西仲宗根不佐手、土川	
			(平25.10.17 追加指定)	
28	下田原城跡	平15.3.25	竹富町字波照間不登流茂知原、稲武知、西比矢	
29	国頭方西海道	平16.9.30	恩納村字仲泊、字山田、字真栄田	
			(平21.2.12 追加指定)	
30	先島諸島火番盛	平19.3.23	宮古島市、多良間村、石垣市、竹富町、与那国町	
			(平26.3.18 追加指定)	
31	銘苅墓跡群	平19.7.26	那覇市銘苅2丁目	
32	山田城跡	平20.4.1	恩納村字山田	
33	宇江城城跡	平21.7.23	久米島町字宇江城山田原	
34	伊礼原遺跡	平22.2.22	北谷町字伊平伊礼原	
35	内間御殿	平23.2.7	西原町字嘉手苅	
36	島添大里城跡	平24.1.24	南城市大里字大里真手川原	
37	中頭方西海道及び普天満参詣道	平24.9.19	浦添市安波茶3丁目、経塚1丁目、当山1丁目他	
38	佐敷城跡	平25.10.17	南城市佐敷字佐敷島之原	
39	中城ハンク道	平27.3.10	中城村字新垣上原他	
40	北大東島燻紙山遺跡	平29.8.14	北大東村字港	

3. 特別名勝一覧

No.	名 称	指定年月日	所 在 地	
			《指 定 経 緯》	
1	讓名園	平12.3.30	那覇市字真地御殿原	
			(昭51.1.30 国指定名勝 平11.5.28 追加指定)	

4. 国指定名勝一覧

No.	名 称	指定年月日	所 在 地	
			(指 定 経 緯)	
1	宮良殿内庭園	昭47.5.15	石垣市字大川	(昭31.2.22 琉球政府指定重要文化財(宮良殿内))
2	石垣氏庭園	昭58.10.27	石垣市字新川明用登	(昭33.1.17 琉球政府指定名勝)
3	伊江殿内庭園	昭61.6.16	那覇市首里当蔵町2丁目	(平13.1.29 追加指定) (平18.7.28 追加指定)
4	川平湾及び於茂登岳	平9.9.11	石垣市字崎枝高田、字川平、字梓海太田、 字登野城高田、字平得山田、字真栄里、字大浜、 字宮良バシタ及び字川平地先の海面	(平27.10.7 追加指定) (平28.10.3 追加指定)
5	下地島の通り池	平18.7.28	宮古島市伊良部字佐和田下地	
6	東平安名崎	平19.2.6	宮古島市城辺字保良平安名	(平23.2.7 追加指定) (平26.10.6 追加指定)
7	伊江御殿別邸庭園	平21.2.12	那覇市首里石嶺町1丁目	
8	首里城書院・鐘之間庭園	平21.7.23	那覇市首里当蔵町3丁目	
9	高屋武海岸及び荒崎海岸	平24.9.19	糸満市字高屋武具志川原、大石原、字東里下兼本原、荒崎原	(平18.7.28 登録記念物(名勝地関係))
10	八重千瀬	平25.3.27	宮古島市平良字池間安段嶺	(平26.10.6 追加指定)
11	久部良バリ及び久部良フリン	平26.3.18	与那国町字久部良	
12	ティンダバナ	平26.10.6	与那国町字野武原	
13	アマミクヌムイ(アマミクの社) 今鬼神ノカナヒヤフ(テンチジアマチジ)及びこはおの御嶽(クバの御嶽) 久高コハウ森(久高のフポー御嶽)	平27.10.7	今帰仁村字今泊 南城市知念字久高	

5. 登録文化財一覧

①記念物(遺跡関係)

No.	名 称	登録年月日	所在地	所有者
1	平敷屋製糖工場跡	平27.1.26	うるま市勝連平敷屋	平敷屋区
2	沖縄県鉄道与那原駅跡	平29.10.13	与那原町字与那原島ノ前原	与那原町

②記念物(名勝地関係)

No.	名 称	登録年月日	所在地	所有者
1	仲本氏庭園	平24.1.24	石垣市字石垣	個人等
2	御神崎	平27.10.7	石垣市字崎枝屋良部	石垣市等
3	旧仲宗根氏庭園	平28.10.3	宮古島市平良字仲宗根	宮古島市

6. 県指定史跡一覧

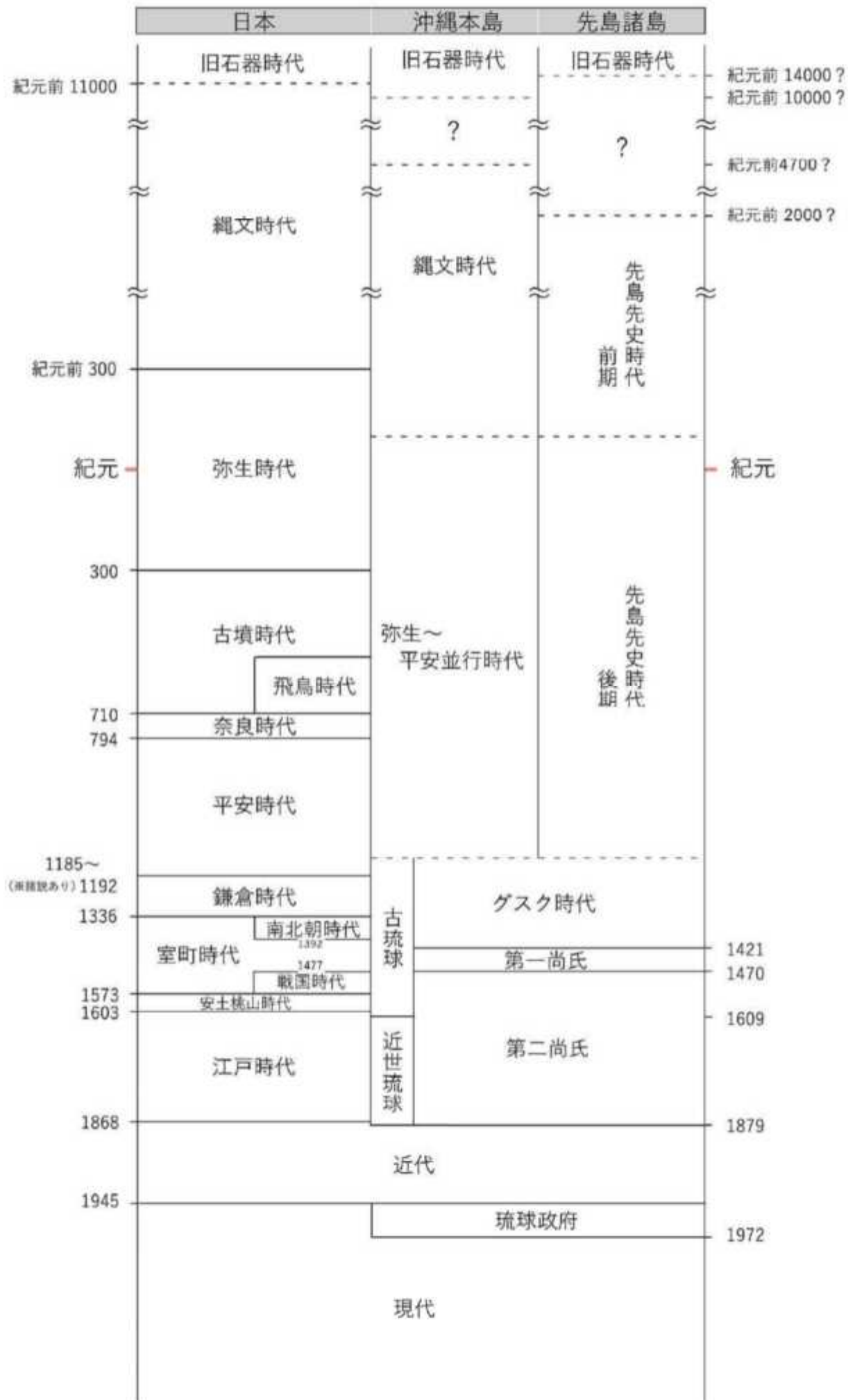
No.	名 称	指定年月日	所 在 地	
			(指 定 経 緯)	
1	龍潭及びその周辺	昭30.11.29	那覇市首里真和志町1丁目	
2	園比屋武御嶽	昭30.11.29	那覇市首里真和志町1丁目	(昭8.1.23 国宝指定(石門))
3	野国紙巻の墓	昭31.2.22	嘉手納町字兼久下原	
4	ドイツ皇帝博愛記念碑	昭31.2.22	宮古島市平良字西里	
5	仲宗根豊見親の墓	昭31.2.22	宮古島市平良字西仲宗根真玉	
6	上比屋山遺跡	昭31.2.22	宮古島市城辺字砂川前原	
7	野原岳の霊石	昭31.2.22	宮古島市上野字野原鏡原	
8	仲里間切蔵元跡	昭31.2.22	久米島町字真謝	
9	美崎御嶽	昭31.2.22	石垣市字登野城	
10	屋我地運天原サバヤ貝塚	昭31.10.19	名護市字屋我地運天原	
11	野国貝塚群	昭31.10.19	嘉手納町字野国	
12	崎樋川貝塚	昭31.10.19	那覇市字天久	
13	平安名貝塚	昭31.10.19	うるま市勝連平安名	
14	米須貝塚	昭31.10.19	糸満市字米須	

№	名 称	指定年月日	所在地
			(指 定 経 緯)
15	久米島大原貝塚	昭31.10.19	久米島町字大原清水原
16	下田原貝塚	昭31.10.19	竹富町字波照間
17	仲間第一貝塚	昭31.10.19	竹富町字西表
18	仲間第二貝塚	昭31.10.19	竹富町字西表
19	平西貝塚	昭31.10.19	竹富町字古見
20	伊江島鹿の化石	昭31.10.19	伊江村
21	弁ヶ嶽	昭31.12.16	那覇市首里鳥嶽町4丁目
		(昭8.1.23 国宝指定(石門))	
22	伊是名玉御殿	昭33.1.17	伊是名村字伊是名
23	伊是名城跡	昭33.1.17	伊是名村字伊是名
24	尚円王生誕地屋敷内「みほそ所」	昭33.1.17	伊是名村字諸見
25	佐敷ようどれ	昭33.1.17	南城市佐敷字佐敷仲上原
26	仲島大石	昭33.3.14	那覇市泉崎
27	今帰仁村仲原馬場	昭34.6.1	今帰仁村字越地
28	西嶺御嶽	昭34.12.16	竹富町字竹富東屋敷
29	蔵元跡	昭34.12.16	竹富町字竹富志登保原
30	垣花城跡	昭36.6.15	南城市玉城字垣花和名盤
31	伊祖城跡	昭36.6.15	浦添市字伊祖後原
32	伊波城跡	昭36.6.15	うるま市石川伊波後原
33	伊敷薬城跡	昭36.6.15	久米島町字轟手河新田
34	首里金城跡石畳道	昭39.5.1	那覇市首里金城町
35	改決羽地川碑記	昭44.8.26	名護市字田井等前方川上境内上増原
		(平8.5.31 追加指定)	
36	那覇市山下町第一洞穴	昭44.8.26	那覇市山下町
37	浦添貝塚	昭47.2.25	浦添市字伊祖真久原
38	古我知焼窯跡	昭47.5.12	名護市字古我知奥又原
39	浜崎貝塚	昭48.2.22	伊江村字浜崎原
40	ウティダ石	昭49.1.17	久米島町字比屋定下村渠
41	多良間島の土原豊見親のミヤーク	昭49.7.11	多良間村字仲筋東筋里
42	寺山の遺跡	昭49.7.11	多良間村字堀川大道里
43	浜元サチピン貝塚	昭49.12.26	本部町字浜元北原
44	山川港原遺跡	昭49.12.26	本部町字山川港原
45	山川垣内権現洞穴遺跡	昭49.12.26	本部町字山川港原
46	スムリヤーマヤーク	昭50.2.13	宮古島市下地字来間
47	ミントングスク	昭52.1.10	南城市玉城字仲村渠後根
48	伊江島のゴヘズ洞穴遺跡	昭52.5.9	伊江村字西江上ゴヘズ原
49	下地町の池田缸	昭52.7.11	宮古島市下地字上地ツボヤ
50	平得アラスク村遺跡	昭56.8.13	石垣市字平得中上原
51	久里原貝塚	昭57.3.4	伊平屋村字前泊久里原
52	桃里恩田遺跡	平2.2.2	石垣市字桃里恩田、字伊野田
53	高腰城跡	平3.8.2	宮古島市城辺字比嘉仲尾嶺
54	国学・首里聖廟石垣	平5.6.11	那覇市首里当蔵町1丁目

7. 県指定名勝一覧

№	名 称	指定年月日	所在地
			(指 定 経 緯)
1	斎場御嶽	昭30.1.25	南城市知念字久手整サヤ八原
2	中城城跡	昭30.1.25	中城村字泊
3	今帰仁城跡	昭30.1.25	今帰仁村字今泊ハンタ原
4	轟の瀧	昭31.2.22	名護市字敷久田
5	首里金城跡石畳道	昭39.5.1	那覇市首里金城町
6	伊江村の城山	昭42.4.11	伊江村字東江上グスク原
7	宜野湾市森の川	昭42.4.11	宜野湾市真志喜
		(平12.5.19 追加指定)	
8	万座毛	昭47.5.12	恩納村字恩納
9	サンニヌ台	昭49.4.25	与那国町字阿陀尼花

歴史年表



安里進・土肥直美『沖縄人はどこから来たか—琉球=沖縄人の起源と成立—』（1999年、ポニーインク）及び財団法人沖縄県文化振興会資料編集室 編『沖縄県史 各論編 第三巻 古琉球』（2010年、沖縄県教育委員会）などを参考に作成した。（破線部 ----- は今後の研究により変わる可能性があります。）

考古編年表（沖縄諸島）

時代区分	土器型式	沖縄諸島発見の九州系土器	その他の編年資料	備考	
縄文時代	草創期 紀元前4700年頃				
	早期	野国第4群 ヤブチ式土器 東原式土器	爪形文土器	ヤブチ式 (紀元前4860~4680年) 東原式 (紀元前4640~4360年)	
	前期	条痕文土器 室川下層式土器 曾畑式土器 神野A式土器 神野B式土器	条痕文土器 曾畑式土器	曾畑式 (渡具知東原) (紀元前3060~2800年)	
	中期	面縄前庭Ⅰ式土器 ← 面縄前庭Ⅱ式土器 ← 面縄前庭Ⅲ式土器 ← 面縄前庭Ⅳ式土器 ← 面縄前庭Ⅴ式土器 ←	旧具志川A式 旧具志川B式 旧具志川C式 旧神野C式 旧面縄前庭式		
	後期	神野D式土器 神野E式土器 伊波式土器 荻堂式土器 大山式土器 室川式土器		伊波式(熱田原) (紀元前1500~1340年) 伊波式(室川) (紀元前1740~1560年)	
	晩期	室川上層式土器 宇佐浜式土器 仲原式土器		入佐式並行 黒川式土器	
	紀元前300年頃				
弥生(平安並行時代)	Ⅰ期	真栄里式土器	板付Ⅱ式土器 亀ノ甲類似土器	弥生前期	
	Ⅱ期	具志原式土器	山ノ口式土器	弥生中期	
	Ⅲ期	アカジャンガー式土器	免田式土器	アカジャンガー式は 中津野式並行か?	弥生後期
	Ⅳ期	フェンサ下層式土器		類須恵器	古墳時代 ↓ 平安時代

(財団法人沖縄県文化振興会史料編集室編)

『沖縄県史 各論編 第2巻 考古』(2003年, 沖縄県教育委員会) p.23 を参考に作成した。

・表中にある年代について1950年を基準年として、放射性炭素年代測定によって算出された年代(±表記)を、紀元前の表記に直した。

用語集

アーチ門 アーチ門は中央部が上方向に凸な曲線形状をした門のことで、琉球では二つ以上の石材を長く加工したものを組み合わせ円弧状に構成した。

東御廻り 沖縄本島の南部の東海岸は、沖縄の始祖発祥の地と信じられており、始祖や王朝成立にゆかりのある御嶽や拝所、古い井泉を巡拝する行事。

按司 琉球が統一される以前に、各地を支配していた首長(領主)のこと。支配する領域の地名を付けて、「中城按司」や「勝連按司」などと呼ばれた。

遺構 遺跡の中に残されている、建築物や工作物、土木構造物などの跡。

石組遺構 住居跡とそれに伴う炉跡、または埋葬墓地に石を組み合わせた構造を持つ遺構のこと。

石組住居跡 石を組み合わせた構造を持つ住居の跡のこと。

石厨子 閃緑岩やサンゴ石灰岩などの石で造られた、洗骨した骨を納めるための容器。方言ではイシジージなどと呼ばれる。

石砦 石でできた橋のこと。

遺物包含層 土器や石器などの遺物を含む地層のこと。

岩陰礫床住居跡 奥行きのない洞穴や岩陰部に人間が生活した住居跡のこと。

岩島風 石で築かれた島のような状態。

印花文 焼物の加飾(装飾)技法の1つ。素地が生乾きのやや軟らかいうちにスタンプのように文様を押したもの。

駅制 交通・通信の制度のこと。

大山式土器 縄文時代後期の土器。深鉢形で胴上部がやや膨らみ、口の周りへすぼまるタイプと、底の部分から口の周りへ直線的に開くタイプの2つの形が知られている。どちらも平底。

面縄前庭式土器 縄文時代中期の土器。鹿児島県徳之島伊仙町面縄第4貝塚前庭部で出土した。深鉢形土器と壺形土器があり、底の部分は尖っている。口の周りと頸の部分にそれぞれ刻みを付けた細い紐状の粘土を貼り付けている。その間にノコギリ状の文様が、頸の部分から底の部分近くまで線状の文様がそれぞれ刻まれている。

面縄第1式土器 弥生時代中期の土器。薄手の壺型をしており、文様は紐状にした粘土を貼りつけ、その左右または上下に刺突文を施している。

『おもろさうし』(『おもろそうし』) 沖縄最古の歌謡集。おもろとは奄美・沖縄諸島に伝わる古い歌謡のことで、およそ12世紀から17世紀頃にわたって各地で歌われた。首里王府がこれを編集したもので、全22巻からなり、1554首が収録されている。沖縄の歴史・文学研究の基本文献。

外郭 城の外側に巡らす囲いのこと。

海岸段丘 海岸沿いにある段丘状の地形。平坦な段丘面と、急斜面の段丘崖からなり、地盤や海面の上昇・下降により生じる。

外耳土器 八重山の先史時代における土器外面に一对の耳がある一群の土器を指す。1905(明治38)年に鳥居龍蔵によって命名された。今日までに知られている八重山式土器、パナリ焼などにも外耳を有するものは多量にのびている。

貝製品 貝殻を素材とし道具や装身具などに加工した製品の総称。

灰釉 草本類(草)の灰を媒溶剤とした釉。(釉薬)

回遊式庭園 近世に初めて現れた庭園形式の一つ。池の周りに園路をめぐらし、その園路沿いに日本文学の古典で知られている名所旧跡を再現した景色や灯籠、滝、橋などの要素を配置し、その風景を楽しむ庭園。

郭 城の内外を土塁、石垣、堀などで区画した区域の名称で、曲輪とも書く。

頭職 かしらしやく 琉球国時代の宮古・八重山における役人の最高職。職名は大首里大屋子。

褐釉陶器 かつゆうとうき 酸化鉄を呈色剤（発色させるもの）とする陶器。酸化炎焼成して明るい褐色が得られる。広口で胴の張った容器は、中国語では「罐」と呼び、広口で底がすぼまった水や酒を入れる器を「缸」という。

亀甲墓 かめこうぼか 外形が亀甲状になっている墓。方言ではカーミンクーバカと称する。

カヤウチパンタ式土器 しやうどしき 縄文時代後期から晩期の土器。深鉢形を主体として、花鉢状の厚い口の周りに特徴がある。底の部分は平底。

伽藍 がらん 一定の住所を定めない僧が住んで仏道を修行する清浄・閑静な場所の意味であったが、のちに寺院の建物を指す。

カルスト地形 ちやうせい 石灰岩などの溶けやすい岩石が、雨水などに溶かされるなどした結果、形成される地形。

枯滝 かれたき 庭園において、水を使わずに石と白砂によって築かれた人工の滝。

間得大君 まねうき 琉球国の最高位の神女（女性司祭者）。名称は名高い偉大な君の意味。王の姉妹、王女、王姪、王妃らが任じられた。

基壇 きだん 建物の下に石や瓦を積み、または土を持って一段高くした場所。

喜念Ⅰ式土器 きねんいちしきしき 縄文時代晩期の土器。鹿児島県徳之島伊仙町にある喜念貝塚より出土した。壺形土器が主体で、底の部分は丸底。口の周りの断面が厚く、三角形またはかまぼこ状。細い紐状の粘土を口の周りから頸の部分に貼り付け、その一帯に線状の文様を刻んでいる。

『球陽』 きゅうやう 編年体に記録された琉球の正史。正巻22巻と附巻4巻からなり、外巻に『遺老説伝』がある。

釘彫り くわび 釘状のもので線^{きぎ}を刻むこと。

クサビ石 くさびいし アーチ門の頂部に入るクサビ形の石。アーチ門を造る場合、最後に挿入され、この位置で周りの石を固める役割をする。

櫛目類似手法 くしめいじししゆりう 粗い格子状の文様を付ける手法。

グスク時代 ぐすくじだい 沖縄考古学上の先史・原史時代編年の旧石器時代、縄文時代・弥生～平安並行時代（貝塚時代）に続く時代で、年代は12～16世紀と考えられている。

『久米島具志川間切旧記』 くめじまぐしかわまざりせうき 久米島の歴代城主の興亡盛衰を散文体で編述したもの。

黒曜石(岩) くわうせき がん 火山岩の一種。ガラスとよく似た性質を持ち、割ると鋭い断面を作る。世界各地でナイフや矢じりなどの石器として使われた。日本では九州以北の地域で産出する。

骨製品 こつせいひん 骨を素材とし、道具や装身具などに加工した製品の総称。

在番 ざいばん 王府により特定の地域に派遣された常駐官。一般に宮古・八重山に派遣された先島在番、久米島の仲里・具志川間切に派遣された久米島在番、異国船・抜荷（密貿易）対策のため各所に派遣された諸浦在番の区別がある。

冊封 さつほう 中国の冊封体制に由来するもので、中国の歴代王朝が東アジア諸国の国際秩序を維持するために用いた対外政策に関する。中国の皇帝が朝貢をしてきた周辺諸国の君主に官号・爵位などを与えて、君臣関係を結んで彼らにその統治を認めることを「冊封」と称した。琉球では中国皇帝が琉球国中山王を封ずる、つまり任命することにあたる。

サメ歯製品(装身具) さめはせいひん ざうしんぐ サメの歯に孔を開け、装身具としたもの。

三山時代 さんざんじだい 沖縄本島が、三山として対立し争っていた時代のこと。三山の「山」は「島」の意味で、沖縄本島を三つに分けて中央部を中山、南部を山南（または南山）、北部を山北（または北山）と称した。

集落遺跡 しゅうらくいせき 集落の跡。旧石器時代の移住生活の暮らしの跡から、古代から近世に至る町や村の跡までを含む。

主郭 しゅかく 山城では、山頂部にあつて城の中心的な役割を担った郭のこと。

宿道 しゆくみち 首里と各地の間切を結ぶ、幹線道路。王府からの情報は、その道を通って中頭・国頭・島尻に伝えられた。これが宿次とよばれる情報伝達システムで、南北ともに西回りと東回りのルートがあった。

条痕文土器 縄文前期の土器。土器の外表面や内表面全体に平行な細い筋が無数に認められるものを指す。木の板や二枚貝の縁などを用いて器面(土器の表面)を整える際に残される痕からその名がつけられた。

城塞型 琉球国の多種多様なグスクのうち、国の形成・展開とともに発達・変遷し軍事的機能を持つようになってきた城。

鐘楼 お寺の鐘を納めた建物。鐘つき堂。

厨子甕 陶器で造られた洗骨した骨を納めるための容器。家型や箱型、甕型などさまざまなタイプがある。

磨石 縄文時代に石皿と併用し、主としてシイの実などのドングリを磨り潰し、粉をひくために用いられた道具のこと。

井泉 沖縄の生活水源となる井戸や泉などの「井泉」のことをカーと称し、流れる川はカーラと呼び区別した。カーにはムラ(村)ガーなどの共同井戸が多く、とくに樋(とい)で湧水を引く形式のものはヒージャー(樋川)と呼んだ。

石斧 石の斧のこと。木を倒す道具としてだけでなく、土を耕す道具としても使われた。

施釉 釉(釉薬)を塗る、または釉に漬けること。

洗骨 墓に埋葬した遺骸を洗い清め、再び納骨する改葬儀礼。

層位学 考古学用語。層位学を考古学に応用し、同一地点における遺物を含む層位の上下関係によって遺物の年代の先後を決定する方法。

装身具 身体に直接または間接に装着する製品の総称のこと。

反橋 材料を問わず中央が高く、弓状に曲線を描いている橋。

竪穴住居跡 地面を浅く掘り下げて床面とし、その上部に屋根を葺く構造の住居の跡のこと。

単郭式 郭が一つの城。

『中山世鑑』 羽地朝秀著。1650(尚質3)年に書かれた最初の琉球の正史。

『中山世譜』 琉球の正史の一つ。羽地朝秀が編んだ『中山世鑑』を蔡鐸が補足・訂正して漢訳した蔡鐸本(1697～1701年にかけて編集)と、その蔡鐸本を蔡温がさらに大幅に改訂した蔡温本(1724年から25年かけて編集)の2種類が存在する。特に断りがない場合は、蔡温本を指すことが多い。

鉄釉 酸化鉄を含む釉薬。基本的に植物の灰に酸化鉄を呈色剤(発色させるもの)として混ぜたもの。

殿舎跡 御殿や館などの建造物跡のこと。

陶磁器 焼物の総称で、陶磁器は大きく陶器と磁器に分かれる。土ものといわれる陶器は陶土と呼ばれる粘土(土)が主な原料となる。一方、石ものといわれる磁器は陶石と呼ばれる岩石が主な原料となる。

遠見番屋 遠見番役の者たちが御冠船や帰唐船、外国船などを昼夜監視するために詰めた建物のこと。

飛鉋 陶器の加飾(装飾)技法の一つ。生乾燥の素地や白化粧がけした器などをろくに置いて、ハネの良く効く鉋でほぼ一定間隔に模様を彫り込む技法。

内郭 城の内側に築かれた囲い。その区域。

仲泊式土器 縄文後期初頭を代表する土器で、底の部分が尖っており、口の周りに貝殻による圧痕文とへら状の工具による斜沈線文が施される2種類のタイプがある。

仲原式土器 縄文晩期終末の土器で、口の部分がわずかに厚い。壺形、または深鉢形の土器で、底は尖っている。

人頭税 人を単位として賦課・徴収される税制。世界各地で行われていて、琉球でも古くから広く存在したともいわれるが、とくに近世先島の租税制度を呼ぶことが多い。1903(明治36)年に廃止。

烽火 合図として上げられた煙のこと。「ほうか」ともいう。

箱式石棺墓 石灰岩の塊や板状のサンゴで側壁をつくり、小口を設け、蓋石を被せ、箱形にした埋葬施設。古いものは、九州弥生社会の墓制の影響を受けたと考えられている。

貼付文 紐状の粘土または粒を器面(土器の表面)や縁に貼り付けて装飾するもの。

番所 ばんじょ 間切番所と同じ。

火の神 ひのかん 台所に祀られている家の神で、ヒヌカン、ヒヌカンガナシ、ウミチムンなどと呼ばれる。家の神では重要視されているため、旧家の跡地やグスクの住居跡などに火の神が祀られることも多い。

フェンサ上層式土器 ふんさじょうしきどき フェンサグスク貝塚の上層から出土した土器を基準とする土器。グスク時代に普遍的に使用された土器で、グスク土器、グスク系土器とも呼ばれている。

副葬品 ふくそうひん 遺骸にそえて葬る器具・調度類。死者に対して器物を副葬する風習は、縄文時代にさかのぼってみられるが、その質と量のうえで隆盛を極めるのは、階級社会が確立して以後のことである。

方位石 ほういし 東西南北の方向を刻んだ石のこと。

北山監守 ほくざんかんしゅ 尚巴志が北山王を滅ぼして、北山(現在の北部)一帯を警護するために1422年に設けた役職。尚巴志が第二子尚忠を今帰仁城に派遣して北山を監守させたのに始まる。尚円王代(1470～76)に入ってから、按司を交代で派遣して北山を監守させていた。尚真王は弘治年間(1488～1505)に第三子尚韶威を派遣、以後代々北山監守を務めさせる。1665(尚質18)年に廃止。

馬艦船 マーランセン 18世紀初頭頃に伝わったとされる中国式の船。近世中期以降に、沖縄本島内および先島を往来した。山原船もこの型式の船。「マーラン」は中国語で、海上を馬のように走ったことからこの名がついたといわれる。

勾玉 まがたま ノロ以上の神女たちが身に付けた玉。

間切 まぎり 中世から1907(明治40)年まで長期にわたって続いた沖縄独自の行政区画単位。

間切番所 まぎりばんじょ 王府時代、間切の行政拠点となった役所。今日の町村役場にあたる。

『宮古・八重山両島絵図帳(両島絵図帳)』 みやこ やまやまりょうとう えずちょう りょうとう えずちょう しやうこくにえ 正保国絵図(1644年に作成された国ごとの地図)に伴って作成された絵図説明書。

『宮古嶋記事仕次』 みやこじまきじしつぎ 1748(乾隆13)年、忠導氏おやけ屋の大主が書き記した原本を元に、在番筆者(役人)が宮古の神話・伝承など忠導氏を中心にまとめたもの。

『宮古島在番記』 みやこじまざいばんき 宮古の在番役人が、その任期中に書きとめておいた重要な事件などの記録。

免田式土器 めんだしきどき 熊本県球磨郡免田地方の地名にちなんだ弥生時代中期末～古墳時代前期の土器。

八重山層群 やまやまそうぐん 八重山諸島に分布する砂岩・シルト岩を主とする中新世前期の地層。

櫓門 やぐらもん 城の中を堅めるために櫓を門の上に造ったもの。矢倉や矢蔵とも書いた。

山ノ口式土器 やまのくちしきどき 鹿児島県大根占町馬場にある山ノ口遺跡上層から出土した土器を基準とする弥生中期の土器で、河口貞徳の命名。

釉薬 ゆうやく 陶器素地などの表面に薄く熔けたガラスまたはガラス質の薄い層。釉薬あるいは単に釉ともいう。陶器表面を滑らかにする、水などの液体を透過させない、強度を増す、希望の色で彩飾する場合に用いる。

『雍正旧記』 ようせいきゅうき 1727(雍正5)年、王府あての報告文書の控えを編纂したもの。宮古の行政に関する建物の位置や数、名所旧跡などについて書かれている。

『琉球国由来記』 りゅうきゅうこくゆらいき 琉球国の地誌。全2巻。1713年の成立。琉球古来の祭祀に詳しいのが特色で琉球の伝統的な社会を理解するための基本的な文献。

琉球政府文化財保護委員会 りゅうきゅうせいふぶんかざいほごいいんかい 1954(昭和29)年6月29日、「文化財保護法」に基づいて発足した琉球政府の行政機関のこと。

琉球八社 りゅうきゅうはっしや 波上宮や沖宮、識名宮、普天満宮、末吉宮、安里八幡宮、天久宮、金武宮を称しているが、いつ頃から琉球八社と呼ぶようになったかは明らかではない。

輪郭式 りんかくしき 主郭を囲む二の郭、二の郭を囲む三の郭という造りをした城。

連郭式 れんかくしき 主郭と二の郭を一直線に並べた造りをした城。串団子状に並べたもの。

炉跡 ろあと 住居跡の内外にある火を使って調理をした跡。

索引

【あ行】

あ げ な び じ せき	安慶名城跡	43
アマミクヌムイ(アマミクの杜)		
な き じん	今鬼神ノカナヒヤフ(テンチジアマチジ)及び	
こはおの御嶽(クバの御嶽)		
く だ か	久高コハウ森(久高のフポー御嶽)	166・167
い え う ぎ ん べ っ て い て い る ん	伊江御殿別邸庭園	80
い え じ ま し か	伊江島鹿の化石	35
い え じ ま	伊江島のゴヘズ洞穴遺跡	37
い え せ ん	伊江村の城山	38
い え ぎ ん ち ち へ い だ ん	伊江殿内庭園	79
い げ ざ と せ き	池間遠見(先島諸島火番盛)	159
い し が せ し て い る ん	石垣氏庭園	137
い ぜ	伊是名城跡	31
い ぜ	伊是名玉御殿	32
い せ じ ょ せき	伊祖城跡	65
い と か ず じ ょ せき	糸数城跡	95
い は かいづか	伊波貝塚	42
い は じ ょ せき	伊波城跡	44
い れ い げ ん	伊礼原遺跡	55
ウイ ン ヤー ち ゅ ぎ せき	上比屋山遺跡	123
う え ぐ じ ょ せき	宇江城城跡	106
う ぐ ん ざ せき	御神崎	140
う ぐ せ ぎ せき	宇佐浜遺跡	14
うち ぎ ん ち ち へ い だ ん	内間御殿	60
ウ ティ ダ 石		110
ウ フ ゴ キ	大岳(先島諸島火番盛)	162
う ら せ ぎ かいづか	浦添貝塚	66
う ら せ ぎ じ ょ せき	浦添城跡	63
ウ カ カ と せ き	砂川遠見[トウカイフツイス](先島諸島火番盛)	160

えん かく じ せき	円覚寺跡	74
お せ が み と せ き	大神遠見(先島諸島火番盛)	159
お せ や ま かいづか	大山貝塚	61
お せ だ かいづか	萩堂貝塚	58
お せ な わ げ ん て つ だ う	沖縄県鉄道与那原駅跡	91

【か行】

かい げ つ せき	改決羽地川碑記	20
か せ の ば な じ ょ せき	垣花城跡	100
か つ れ ん じ ょ せき	勝連城跡	46・47
か び ら かいづか	川平貝塚	134
か び ら ヒ	川平火番盛(先島諸島火番盛)	162
か び ら わ ん せき	川平湾及び於茂登岳	138
か り ぎ だ と せ き	狩俣遠見(先島諸島火番盛)	159
き た だ い と う じ ま り ん こ う ぎ ん	北大東島燐鉍山遺跡	111
き の わ ん し ち り	宜野湾市森の川	62
き ゃ ん	喜屋武海岸及び荒崎海岸	103
お じ じ ち ち へ い だ ん	旧仲宗根氏庭園	120
く り せ ぎ かいづか	久里原貝塚	30
ぐ し かわ じ ょ せき	具志川城跡(糸満市)	102
ぐ し かわ じ ょ せき	具志川城跡(久米島町)	105
ぐ し げ ん かいづか	具志原貝塚	34
ク ス タ ム イ	小城盛(先島諸島火番盛)	163
くにがみ ほう さい かい だ ー	国頭方西海道	27
く ぶ ら	久部良バリ及び久部良フリシ	151
く め じ ま せき	久米島大原貝塚	108
くらもと せき	蔵元跡	150
く り ぎ と せ き	来間遠見(先島諸島火番盛)	160
ム イ	コート盛(先島諸島火番盛)	158
こ が ち	古我知焼窯跡	21

こくがく しゅり せいびょういしがき
国学・首里聖廟石垣 90

こめ すかいづか
米須貝塚 104

【さ行】

さきしましよとう ひ ばんむい
先島諸島火番盛(先島諸島火番盛とは) 158

ざ き みじよあと
座喜味城跡 50・51

さ しきじよせき
佐敷城跡 98

さ しき
佐敷ようどれ 99

さすヒージャーかいづか
崎樋川貝塚 86

さん に ヌ だい
サンニヌ台 153

しき な えん
識名園 76・77

しましーおおざとびよせき
島添大里城跡 97

しまじりとお み さきしましよとう ひ ばんむい
島尻遠見(先島諸島火番盛) 160

しも じ じま とお いげ
下地島の通り池 117

しも じ ちよう いげ だ ば し
下地町の池田疋 126

しも た ばるかいづか
下田原貝塚 145

しも た ばるびよせき
下田原城跡 144

しゅ り きんじよちよういしだたみち
首里金城町石畳道 84・85

しゅ り じよあと
首里城跡 72・73

しゅ り じよしよいん さすの まていえん
首里城書院・鎖之間庭園 81

しようえんおうせいたん ち や しきない じよ
尚円王生誕地屋敷内「みほそ所」 33

すえよしぐうあと
末吉宮跡 75

すみりやーみやーか
スメリヤーマヤーカー 125

すいふやう たき
斎場御嶽 92・93

その ひ ゃ ん う たき
園比屋武御嶽 83

【た行】

たかうすじよせき
高腰城跡 127

たかニク (さきしましよとう ひ ばんむい)
タカニク(先島諸島火番盛) 163

グティグチディ (さきしましよとう ひ ばんむい)
グティグチディ(先島諸島火番盛) 164

たまのひら
玉陵 70・71

たまてす(びよせき)
玉城城跡 96

た ら ま じ ま ンアバルトミ ミ ヤ
多良間島の土原豊見親のミヤーカー 128

イ ナ ヘ じよせき
伊敷索城跡 109

ち ん じよせき
知念城跡 94

ティンダバナ 152

てらやま い せき
寺山の遺跡 129

こうていほうあい き ねん ひ
ドイツ皇帝博愛記念碑 121

とうぞとおん だ い せき
桃里恩田遺跡 143

とどろ たき
轟の滝 22

【な行】

なかのみほうせいかいどうおま ぶ てん ま きんひのみち
中頭方西海道及び普天満参詣道 64

なかてす(びよあと)
中城城跡 56・57

なかてすく みち
中城ハンタ道 59

なかざと ま ざりくらもとあと
仲里間切蔵元跡 107

なかしまうふいし
仲島大石 88

なか そ ね けいみ せき
仲宗根豊見親の墓 122

なかとまり い せき
仲泊遺跡 26

なかばる い せき
仲原遺跡 45

なか ま だいいちかいづか
仲間第一貝塚 146

なか ま だいに かいづか
仲間第二貝塚 147

なかみり (さきしましよとう ひ ばんむい)
中森(先島諸島火番盛) 164

なかみり はてるま (さきしましよとう ひ ばんむい)
中森[波照間ムリ](先島諸島火番盛) 163

なかもと していえん
仲本氏庭園 139

な き じんじよあと つつたり じよあと
今帰仁城跡 附シイナ城跡 16

な き じんじよせき
今帰仁城跡 17

な き じんそん なかばら ば ば
今帰仁村仲原馬場 18

な ね し やましたちようだいいちどうけつ
那覇市山下町第一洞穴 89

にしとう 御 嶽	149
の ぐにかいづかぐん	
野国貝塚群	54
の ぐにそうかん 塚	
野国総管の墓	53
の びるだげ たまいし	
野原岳の霊石	124

【は行】

はまききかいづか	
浜崎貝塚	36
はまもと かいづか	
浜元サチピン貝塚	25
ひらへん なぞき	
東平安名崎	118
びにしかいづか	
平西貝塚	148
ひらえ むらい せき	
平得アラスク村遺跡	142
ひらく ぼとねみ だい さきしましよとう ひ ばんむい	
平久保遠見台（先島諸島火番盛）	162
はづまり さましましよとう ひ ばんむい	
ブズマリ（先島諸島火番盛）	164
ふるすと びるい せき	
フルスト原遺跡	135
へしき やせいとうこうじょうあと	
平敷屋製糖工場跡	48
べんが だげ	
弁ヶ嶽	87
へん な かいづか	
平安名貝塚	49

【ま行】

まん ざもう	
万座毛	29
み さき 御 嶽	
美崎御嶽	141
みや ことねみ さましましよとう ひ ばんむい	
宮古遠見（先島諸島火番盛）	161
みやら ぎん ちてい さい	
宮良殿内庭園	136
ミントングスク	101
みん な とねみ さましましよとう ひ ばんむい	
水納遠見（先島諸島火番盛）	161
め かの ぼかあ とぐん	
銘苺墓跡群	78
も めんばら い せき	
木綿原遺跡	52

【や行】

や え やま とねみ さましましよとう ひ ばんむい	
八重山遠見（先島諸島火番盛）	161
や が じうんてん びる かいづか	
屋我地運天原サバヤ貝塚	19
や び じ	
八重千瀬	119
やまがわかきうちごんげんどうけつ い せき	
山川垣内権現洞穴遺跡	24
やまがわかきなと びる い せき	
山川港原遺跡	23
やま だくすい あと	
山田城跡	28
やま とが い	
大和井	116

【ら行】

りゅうたん およ しょうへん	
龍潭及びその周辺	82

【コラム】

先史時代を理解するために	15
石積みの移り変わり	56・57
琉球庭園の中の枯山水 くれせんすい	154

文化財の体系図



指定

国宝

文化財

文化財

などを考える
無形文化財

民俗文化財

民俗文化財

民俗文化財

などを考える
無形民俗文化財

史跡

指定

特別史跡



勝連城跡

名勝

指定

特別名勝



東平安名崎



識名園

指定

特別天然記念物

登録記念物

的景観



平敷屋製糖工場跡

群

選定

重要伝統的建造物群
保存地区

術

あとがき

近年の沖縄の文化に対する評価の高まりによって文化財の指定件数が増え、新たに指定された文化財を紹介する必要性が生じたことにより、平成 27 年度から『みんなの文化財図鑑』の刊行事業が開始されました。

郷土文化の普及啓発を行うための基礎的な教材として、「史跡・名勝編」、「埋蔵文化財編」、「有形文化財編」、「無形・民俗文化財編」、「天然記念物編」、「ハンドブック版」の 6 冊の書籍を刊行する予定です。本書は、その第 1 冊目として、史跡・名勝・登録記念物（遺跡関係・名勝地関係）を収録した「史跡・名勝編」です。

刊行に際して、執筆、編集は教育庁文化財課が行いました。県内外の人々に文化財に対して親しみを持ってもらえるよう、イラストを用い、写真を多く使ってデザイン性を重視した編集となっています。

また、掲載した写真については、業務委託により文化財課で撮影したものに加えて、下記の方々・関係機関にご協力いただきました。ここに謝意を表します。

平成 30 年 3 月
沖縄県教育庁
文化財課長 萩尾 俊章

・写真協力（50音順・敬称略）

佐藤 宣子、一般財団法人沖縄美ら島財団首里城公園管理部、沖縄県立博物館・美術館
恩納村教育委員会、京都大学総合博物館、北谷町教育委員会、中城村教育委員会
今帰仁村教育委員会、那覇市市民文化部文化財課・那覇市歴史博物館、南城市教育委員会
西原町教育委員会、宮古島市教育委員会、与那国町教育委員会、与那原町教育委員会
読谷村教育委員会、琉球大学附属図書館

・デジタル画像収集業務委託

平成 27 年度 デザイン工房ズアン（古堅 希亜）

平成 28・29 年度 株式会社 Nansei

撮影者：嘉納 辰彦、桑村 ヒロシ、ヴィッシュ・ラズカーノ

私たちの文化財です 大切にしましょう!!!

文化財を許可なく無断で現状変更する
ことは法律で禁止されています。

らくがきしない



壊さない



持って帰らない
別の場所で捨てない



ゴミを捨てない



掘らない



香炉など文化財に
関係ないものを置かない



みんなの文化財図鑑
－ 史跡・名勝 編 －

2018(平成30)年3月発行

発行： 沖縄県教育委員会
編集： 沖縄県教育庁文化財課
〒900-8571
沖縄県那覇市泉崎1丁目2番2号
TEL.098-866-2731

印刷： 丸正印刷株式会社
〒903-0211
沖縄県西原町字小那覇1215
TEL.098-835-8181

*本書に掲載された写真は、提供者のクレジット等特記がない限り、全て沖縄県教育庁文化財課に帰属します。

UD
FONT
by MORISAWA

見やすく読みまちがえ
にくいユニバーサルデ
ザインフォントを採用
しています。